

わが最強の時代

二十四期生 小林 俊之

私は一九六九年四月、西高卓球部に入部しました。以後三年の六月までいろいろなことがありましたが、もっとも活気ある練習をしていたのは二年生の後半でした。部内でのゲーム練習がとても楽しみでした。

そのころは、古い体育館で練習をしていたのですが、光線の加減で同じコートでも一方のサイドが他方にくらべて極端に見にくくなっており、しかもゲーム練習は、日が沈んでいくころ行なうのでとくにひどいのです。私はジャンケンに勝つと必ずサイドの選択権をとったものでした。ところが他の者もそうするのです。とにかく、皆が勝とう勝とうと必死でした。

さて、私は最後までこれといった成績を残せなかったのですが、一年の時から、試合に行くとき緊張のあまりやたらとトイレへ行きたくなる、とくに冬はひどいのです。もっとウォーミングアップすればいい、簡単なことなのですが、そこまで考えつかないのです。そうして無残な敗戦……。こういうケースが何回もあり神経質になっていました。



二年の冬、同学年の川田君と試合に行きました。その日は寒い日でした。彼は、運よく？ 二回続けて不戦勝となり、長い時間待っていました。彼が「ひえる、ひえる」を連発するのを聞いて私はふきだしそうになりました。その日はとてもリラックスして試合ができ、それまでにないゲームができました。私の最強時代はその時からやってきたようです。それ以来半年間、少しは勝てるようになったのは、もしかすると彼のおかげかもしれません。

西卓会も三十年を迎え、活発な活動が行なわれているようです、私も負けずに、第二の最強時代をめざし、奮戦しようと思います。